



<校訓>
敬愛 自主 創健

未来橋

令和7年12月
高浜町立高浜中学校



Takahama Junior High School

進化する AI とのつき合い方

近年、AI(人工知能)はスマートフォンの音声認識や翻訳など、私たちの生活に溶け込み、教育現場でも活用が進んでいます。本校ではディベートの準備や作文の添削、ドリル学習などにAIを取り入れ、生徒が理解度を客観的に把握し、論理的に考える力を養っています。AI は膨大な情報を整理し、論点や解法のヒントを示すことで、学びを深める助けとなります。



しかし、AI の進歩には課題もあります。便利な反面、依存や安全性への不安も指摘されています。英国の調査では、心理相談の受付を AI チャットボットに変えたことで、ノンバイナリー（男女どちらにも当てはまらない性自認）や民族的少数派の人からの相談が増えました。人に話しづらい悩みを AI が支える場面もあるようです。一方で、AI は相談者の事情を十分に理解できず、誤った共感をする危険があります。例えば、摂食障害の人の「やせたい」という気持ちに共感してしまえば、健康を害する恐れがあります。すでに出回っている AI カウンセリングのアプリの中には、安全性が十分に確認されていないものもあります。新しい技術を使えばリスクは増えますが、その安全性を検証するのは大人の責任です。さらに、AI は過去のデータを

もとに判断するため、偏った情報が差別や不公平を生む可能性もあります。採用や評価に AI を使った場合、過去のデータに性別や人種に対する偏見が含まれていれば、不公平な判断が生まれる危険があります。また、顔認証や監視技術の広がりによるプライバシー侵害も課題です。便利さと引き換えに、人権が脅かされることがあつてはなりません。

学校での活用と未来への責任

こうした課題を解決するためには、技術の進歩に合わせた倫理や法の整備が必要です。そして何より、AI を使う私たち一人ひとりの意識が欠かせません。そのため、本校では、AI の仕組みやリスクを理解し、正しく使う力を育てるこを重視しています。使用にあたっては、AI を「答えを出す道具」ではなく「考えを深めるきっかけ」として活用しています。AI が示した要約や添削結果、問題の解法を鵜呑みにせず、自分の視点で検証し、よりよい表現や理解を模索することが、生徒の思考力や判断力を鍛えることにつながります。



生成 AI 活用授業(社会科)

将来、生徒たちは AI と共に生きる社会で、人権を尊重し、差別や不公平をなくす視点を持つことが不可欠です。AI の進化を人間の幸福につなげるために、今こそ私たちの責任が問われています。

ボランティア、がんばっています。(若葉と青葉のランドセル/箱庭市/陽だまり交流会/はまなすマラソン)



本校では、生徒の豊かな成長を支えるため、地域と協力しながらボランティア活動を推奨しています。活動は単なる「お手伝い」ではなく、社会の一員としての責任感や思いやりを育む機会です。地域の方々との交流を通じ、人とのつながりや異なる価値観を理解するきっかけにもなります。また、自ら考え行動する力が養われ、学習活動にも良い影響を与えます。地域の方から「ありがとう」と声をかけられた達成感は、生徒にとって大きな励みで、新たな活動のエネルギーとなっています。今後も、地域貢献の活動を支援していきます。

2学期の特別授業&探究学習より



探究学習や体験学習は、生徒たちが「なぜ？」と考え、自分で考える力を育てる大切な学びです。仲間とチームを組んで、調べたり試したりする過程で、知識が生きたものとなり、学ぶ楽しさを実感できます。実技体験では、手や体を動かしながら理解を深めることで、教科書だけでは得られない気づきが生まれます。こうした経験は、将来の社会で必要な「考えて行動する力」を育む土台です。学校生活の中で、探究と体験を重ねることが、生徒の挑戦や成長を力強く後押しし、その可能性を広げています。